

特別養護老人かるべの郷さざんか

～取組テーマ：ボトムアップ型のカイゼン～



法人名：社会福祉法人かるべの郷福祉会

施設名：特別養護老人ホームかるべの郷さざんか

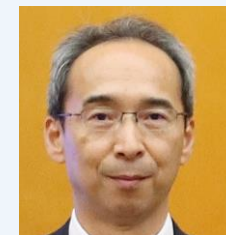
- ・ サービス種別：介護老人福祉施設
- ・ 所在地：兵庫県養父市十二所871
- ・ 定員：50人
- ・ 従業員数（事業所）
常勤29名、非常勤10名

お問い合わせ先

電話：079-664-1875

介護職員の働きやすい職場環境づくり
厚生労働大臣表彰優良賞（令和6年度受賞）

施設長 （ふじもり ひろし）
藤森 博



取組のポイント

①職員の待遇改善に係る取組

福利厚生充実

②生産性向上の取組

その日の状況にあった業務表の作成

③人材育成に係る取組

職員主導の委員会

取組詳細① 職員の待遇改善に係る取組

○取組の概要

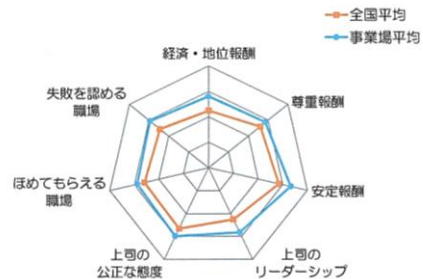
- ・ 職員が健康で長く働くことができる環境を整える
- ・ 職員の仕事満足度を高める
- ・ ユースエール認定、ホワイト企業認定
健康経営優良法人認定、もにす認定を取得

○取組のポイント

- ・ 全額会社負担で人間ドックを受診
- ・ 就業時間中及び敷地内禁煙
- ・ 職員主導によるキャリアパス制度
- ・ 自法人で、初任者研修養成施設、実務者研修養成施設を開設

仕事の資源（部署レベル）

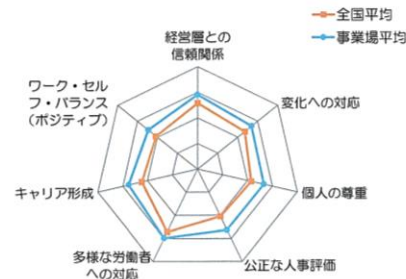
仕事の資源に含まれる分析尺度を7つの尺度グループ毎に集計しています。
グラフの外側に向かって、良い状態であることを示しています。



全員 p. 8 / 13

仕事の資源（事業場レベル）

仕事の資源に含まれる分析尺度を7つの尺度グループ毎に集計しています。
グラフの外側に向かって、良い状態であることを示しています。



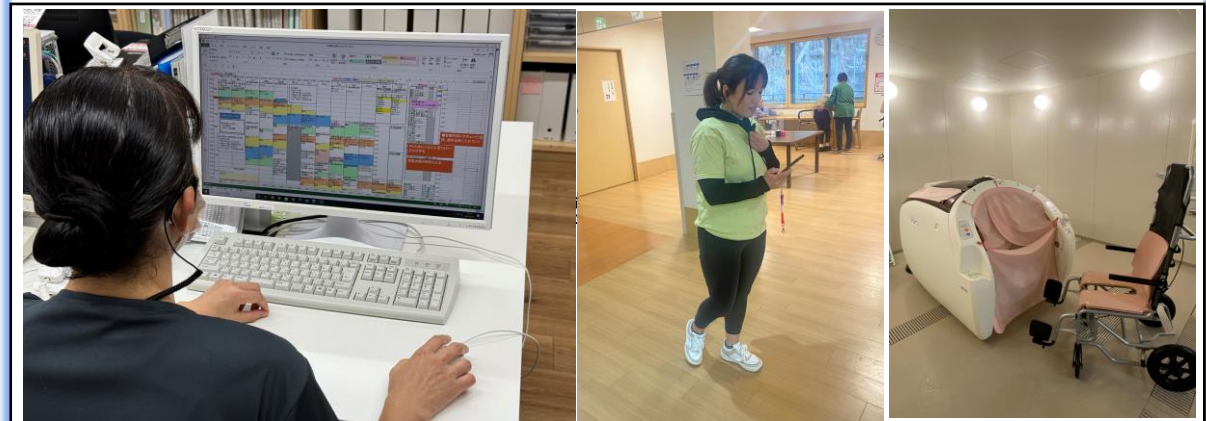
取組詳細② 生産性向上の取組

○取組の概要

- ・ お客様へのサービスに繋がらない、職員の行動の『無駄』を洗い出し、この無駄な時間をお客様へのサービス提供時間に修正する。

○取組のポイント

- ・ その日の状況に合った、分単位の業務表を毎日作成
- ・ 見守りカメラ等、各種機器を導入
(機器を導入すれば、現場の困りごとが改善するわけではないと思います。まずは、現場の困りごとを知って原因を分析する。その改善策の一つとして、道具の導入があるのではないのでしょうか。)



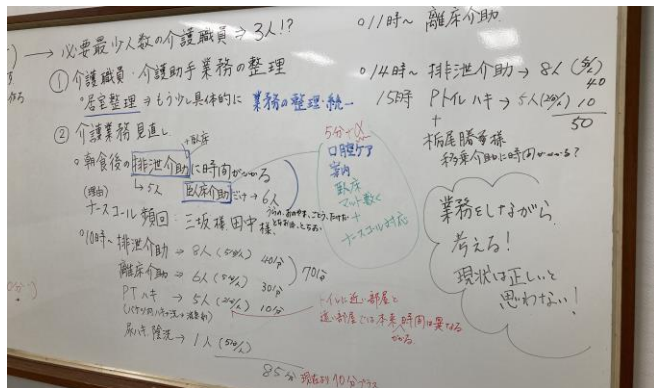
取組詳細③ 人材育成に係る取組

○取組の概要

ノーリフティングケア委員会、5S委員会、常に考えるケア（お客様の個別課題や業務課題に関すること）委員会を立ち上げ、職員にはいずれかの委員会に属する体制をとっている。各委員会で役割を分担し、職員が主体となって業務改善の検討を繰り返している。

○取組のポイント

介助場面における業務課題を検討する場を設け、職員がオープンに参加できるようにし、職員の声をベースに一つずつ業務の改善策に反映することを繰り返し、職員の声が業務改善に反映されることの経験を重ねていった。



Episode

取組を始めたきっかけ

平成30年のある日、午前9時ごろに面会に来た家族が「朝ごはん中にお邪魔しました」と早々に帰られたことで、業務の異常な遅れに気づき、その原因分析をスタート。その際、「職員が定時に帰れない、ムリな業務、ムダな動きが多い」など、人を増やしても解決できる問題ではなく、根本的な業務改善が必要な現状が明らかとなった。

取組を進めるにあたって苦労したこと

最初、業務改善は管理職主導で開始。3年目から3つの委員会を作り、職員で問題を解決していく取り組みを始めたが、最初は発言も少なく静かな会議だった。管理職が職員からの課題の提案に対して、「なぜそう思うのか?」「問題の原因は何?」と質問を繰り返すことで、課題の原因を考えることができるようになり、徐々に職員に問題解決能力がついていった。

取組の成果・効果

管理職が1か月かけ、現場業務のムリ・ムラ・ムダを洗い出し、1日の業務を細分化・実施時間帯の最適化を図った。早出・日勤・遅出など出勤時間別に職員が担当する業務を決め、身体介護は専門職、家事や付帯業務を介護助手が担うといった役割分担を行い、決められた職員数で時間内に業務を完遂できるようになった。また、同時にお客様に対するケアの質の向上を図ることに成功した。

職員の声

現場の課題について原因の追究や解決策を管理職も一緒に考えてくれ、問題解決のためにロボットの導入が必要となれば、その日のうちに導入に向けて行動してくれる等、スピーディーな対応がとても有難いです。これまでの業務改善の経験から、今では自分たちが意見を出せば変えていくことができるという雰囲気があります。もっと意見を出しやすく働きやすい職場を自分たちで作っていきたいと考えています。

Message

施設長から、これから取り組まれる皆様へ

働きやすい職場環境づくりには、身体的介護負担を軽減するための各種機器の整備等の物理的側面と、仕事のやりがい・人間関係等のソフト面が重要な要素となりますが、これは、経営者と現場職員が一体となって協力し取り組むことが重要だと思います。

そして、生産性の向上には、まず『ムダ』や『ムラ』を削減するために「アナログ」的方法による業務改善を行い、無駄な時間をサービス提供時間に修正する成功体験を経験する。次に、サービス提供時間を効率化するために、ICT機器の導入等の「デジタル」的方法を用いて業務改善を行うことが、効果の出る手順ではないかと考えています。

現代は、生産性の向上といえど、まず「デジタル」が先に頭に浮かぶと思いますが、最初に取り組むのは、職員に力がつく「アナログ」的なカイゼンだと思います。

